

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和 7 年 5 月 1 2 日（月曜） 1 9 時 3 0 分～ 2 0 時 3 0 分
開催場所	牧野公民館
対象集落	東山・田野口・牧野
参加者数	15 人
出席議員	班長（藤原清勝） 司会（藤原清勝） 報告（門脇保文） （笹倉政芳）（門脇教蔵） （日原茂樹）（大山由郎）（廣畑幸子）（清水俊博）
意見発表	（門脇保文）（笹倉政芳）（門脇教蔵）
意見まとめ	・ 定数削減問題についてなぜ減らせないのか。 ・ 若い世代に議員になってもらうためには、土日の開催が必要ではないか。どのような事を審議、提案、採決等に至るのか傍聴する必要があるのではないか。 ・ 10 年後、消防団の人数減少問題に対して、集落の統廃合が必要ではないか。また、多可消防署の役割分担の見直しが必要である。 ・ 集落に於いても人口が減るために草刈り問題が起きている。他所から応援できるか。業者に頼むかの選択が必要である。 ・ 現状を維持するのではなく「ダウンサイズ」にあった事を考えていかなければならない時代に来ている。 ・ 中学校やあすみる等立派な建物ができて活用する子どもを増やす事も検討しなければならない。 ・ 年寄り向けの交通手段としてシニヤカーの補助制度が必要ではないか。 ・ 用水路、水門、木製の橋等が劣化しているので補助の拡充を。 ・ 土砂災害等のハザードマップの明記により土地の評価額が安く見積もられる。土地が売れない状況なので何か対策は出来ないか。 ・ 牧野地区は耕地整理が9割方できていないので、大型農機が入りにくい。専業農家の引き受けがしにくい。今後の農業をどう守っていくのか不安。 ・ 産業振興に町は本気で取り組んでいるのか。企業誘致に関しての説明やアドバイスを積極的にすること。 ・ ラベンダーパークが取り組むアロマ、認知症予防に効くと聞き各地域でラベンダー栽培がなされているが、現状は非常に厳しい。今後どう支援していくのか。 ・ 余暇村公園付近の町道の草刈りをしているが、車に被害が出ないか心

	配。損害賠償等はどうなるのか。 ・ 5 年前より村の作業などの日役が少なくなっている。若い人が出難い。作業ができなくなっている。何かいい方法がないのか考えて頂きたい。 ・ 10 年後を考える～少子高齢化。若い人がいない高齢化が進んでいる。村の行事は、土日になっている。若い人が出難い。土日以外で出来ないか。出役も毎回同じ顔触れである。40 歳代が少ない。元気な村づくりができない。元気になるためにはどうすればよいか。 ・ 子供会活動をしているが、町からの補助金が無い。子供会を解散する声も出ている。 ・ 少子高齢化の波が加速している。まずは認めて、今居られる方をどのようにして行くか考えるべきではないか。 ・ 高齢者の中には元気な人も多く居られる。力を借りればいいのではないか。出役された方には出役金等を払えばいい。多目的交付金を活用すれば。 ・ 先日「夢見る校長先生」の映画（ベルディ）で観た。多可町も参考にすべきである。一つの市町にとらわれず、通勤であれば例えば、丹波市・西脇市・加東市・加西市・多可町地域で一か所誘致すればいいのです。 ・ 先日、多可テレビで草刈り機の講習会が放映されました。女性の方も多くの人が参加されていた。今後も続けるべきである。 ・ 多可町には酒米のまちである。農業大学の生徒を招き、自習、体験して頂き若い人が参加していただければ町の PR にもなると思うが。
--	---

令和 7 年 5 月 20 日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 門 脇 保 文

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和 7 年 5 月 13 日（火）／19 時 30 分 ～ 20 時 30 分
開催場所	安楽田公民館
対象集落	門前 安楽田
参加者数	11 人
出席議員	班長（廣畑幸子） 司会（清水俊博） 報告（清水俊博） （橋尾哲夫）（藤本一昭）（藤原清勝）（門脇保文）（日原茂樹）
意見発表	（橋尾哲夫）（藤本一昭）（廣畑幸子）
意見まとめ	・ 集落内寺院の維持管理に多くの費用を要します。補助制度の検討要望 ・ 集落所有の土地の管理（特に草刈り）に苦慮している。補助金の支援 ・ 町関連の役職が多くあり、その選出に苦慮する。少なくなるよう要望 ・ 民生児童委員の仕事は忙し過ぎ、その人選に苦慮。考慮してほしい ・ 小野市の教育水準が高い。多可町教育も小野以上の水準に引き上げて。 ・ 少子化の中、中学校をなぜ作らないとだめだったのか。借金で作るということは子や孫に負担をかける。「あすみる」ができていますが、駐車場が狭くバス路線はどうするのか。財政面も心配。 ・ 子どもが元気だと、年寄りや若い人が引っ張られて元気になる。 ・ 「ココミル」もっと子どもが（小学校高学年以上の子どもかな）遊べるようにすべき。 ・ 町全体に企業が少ない。働く場所が少ない。企業誘致すべき。 ・ 図書館の本棚、下の段は低すぎて見えない、すこし工夫がほしい。 ・ 「あすみる」に人が集まるように企画すべき。 ・ 図書館まつり、「お化け屋敷」企画と聞いている。子ども達の交通の便を考えてほしい。例えば小学校発あすみる行きバス等。もちろん往復。「あすみる」で「算数教室」や夏休みの宿題を教えてもらえたりすると更によいのだが。 ・ 少子化は 15～6 年前から言われてはいる。でも子育て世代の取り合い。人口を急に増やすのはむずかしく思う。抜本的な手を早く打たないと。 ・ 廃品回収も来年からできないかもしれない。兔にかく人手が少ない ・ シニアクラブでは楽しい場所づくりで元気アップ広場などしている。月 1 回でもよいので気軽に集まれる場所を考えてはどうか。 ・ お菓子などを持ち寄って、好きなことをする空間づくりは良いと思う。 ・ 耳が聞こえにくくなり、人の集まるところに行っても楽しくない。補聴器の補助制度をもっと浸透させるべきです。

	・村で堤防の草刈りを真夏の７月にしている。１２月には重機を入れてもらい大変楽になっているのだが、真夏の時期に重機を入れてほしいと何度か行政に要望したが、出来ないというばかり。７月は酷暑が続き熱中症等集落での作業は大変危険です。 是非重機をいれるか、堤防の構造を変えるか何とかしてほしい。 ・安楽田にスイスの人に移住してきている。町内の説明をするとき奥さんは日本人なので通訳はしてくれるのだけれど、英語日本語どちらでも書いてあるパンフレットがあるとありがたい。 ・農地を手放す人が増えているが、村としては地域として守りたい。よくわからない人が入ってきて困った使い方をしても困る。地域の人に買ってほしいので、買う人への支援の仕組みを作してほしい。 ・いろんなことに単体ではなく三世代の考え方でやってみてはどうだろう。 ・伝統文化の伝承に苦慮している。特に担い手確保が困難に・・・ 安楽田も「多可町の無形民俗文化指定「荒田神楽」を受けているが継続した支援を必要としています。 ・参加者からはこの集落は非常に住みやすく、人との距離が近く安心です 気軽に声をかけあい、助け合いの文化が根付いていますとのこと。 今後の地域づくり、政策立案に貴重な意見と受け止めました。 ・「語る会」このような対話の場を定期的を開催し、住民の思い、課題を把握することが、持続可能な地域社会づくりに多いに寄与します。
その他 特記事項	R427号線歩道において「門前～安楽田～東山間」に関連し、非常に狭隘であり、段差があり、雑草も繁茂しています。歩行者等利用がしにくい為、早急に整備が必要です。 安楽田山浦区長からの要望事項

令和７年５月１３日

多可町議会議長 日原茂樹様

報告者 清水俊博

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和7年 5月16日（金）19時30分～21時30分
開催場所	鍛冶屋公民館
対象集落	鍛冶屋・間子
参加者数	16人
出席議員	班長（足立吉継）司会（吉田政義）報告（大山由郎） （市位裕文）（廣畑幸子）（藤原清勝）（日原茂樹）
意見発表	（足立吉継）（市位裕文）（大山由郎）
意見まとめ	・ 議会のテレビ放送（一般質問）。質問、答弁ともに下を向いて原稿丸読みで気持ちがこもっていない。最後まで見る気がしない。 ・ 10年後は人がいなくなる。高齢者だけになる。 ・ 子育てするならダントツ多可町の効果は？支援を沢山しているのなら、外にもっと宣伝を。 ・ 村には人はいるのに、敬老会、女性会、子供会も解散。消防団も解散したい意向。民生委員のなり手が無い。 ・ シニアクラブをはじめ、各種団体の存続が難しい。 ・ 道普請、山行きなど10年後には行く人はいない。 ・ もっと町営住宅の活用を検討すべきだ。 ・ 町の活性化のため、大きな商業施設を誘致してはどうか。 ・ 町内には多くの外国人が働いている。もっと多くの外国人に来てもらい、労働力になってもらったら。 ・ 多可高校をもっと魅力のある（特徴のある）学校にしたら。たとえばもっと福祉関係に力を入れたらいい。 ・ 若い女性の活躍の場を、町は力を入れるべきだ。 ・ 新しい高齢者施設は無理だと思うので「あすみる」に高齢者が楽しめる（カラオケ等）施設にしてほしい。 ・ 農業の後継者が欲しい。今のままでは早期衰退の道が待っている。何とかしてほしい。 ・ 交通インフラから取り残された。加西や丹波にはインターがある。工場誘致ができれば人口も増えるはずだ。 ・ 若い家族が住みたいと思うように、町は積極的に支援してほしい。 ・ 使われなくなった（箱もの）施設の跡地活用をしっかりと。

令和 7年 5月19日

多可町議会議員 日原茂樹 様

報告者 大山由郎

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和 7 年 5 月 19 日（月曜） 19 時 30 分～20 時 30 分
開催場所	奥中公民館
対象集落	高岸・奥中・徳畑
参加者数	16 人
出席議員	班長（藤原清勝） 司会（藤原清勝） 報告（門脇保文） （笹倉政芳）（門脇教蔵） （日原茂樹）（吉田政義）（廣畑幸子）
意見発表	（門脇保文）（笹倉政芳）（門脇教蔵）
意見まとめ	・ 小学校の統廃合についてはどうなっているのか。・ 中学校の統廃合の跡地対策はどうなっているのか。 ・ 大学を卒業しても働く場所がない。 ・ 広域で企業誘致や町づくり等について考える。 ・ 余暇村公園の遊具の管理体制はどうなっているのか。定期的にメンテナンスを行っているのか。コテージの活用はどうなっているのか。施設のバリアフリーが行き届いていないのでは無いか。見直すべきである。 ・ バスケットボールは町外の人利用が多いために予約が取れない。町内の住民を優先するように。また、キャンセル料は取っているのか。 ・ 町外から来られる方が多いので（お金を落としてもらえる工夫）。 ・ 田圃の後継者問題についても広域で考えていくべきだ。 ・ 中区に公共施設が多すぎるのではないか。 ・ 人口減少のために公共下水を減らし、個別槽に変えていくべきである。 ・ シニアクラブを存続したいが、今は休会している。高齢化による共生社会の必要性を感じるが、実態は中々難しい。何かきっかけが欲しい。 ・ 農業を通じた集落の活性化。営農組合 32 人で構成されている。非農家も巻き込んで楽しい農業で村を元気にしたい。町も協力してほしい。 ・ JA がやるライスセンターに期待しているが、いつできるのか。これも地域の活性化につながる。 ・ 山田錦の等級の基準があいまい。生産地区によって等級が決められているように思うので産業振興課の見解が聞きたい。 ・ 道路整備で多可町を活性化すべき。国道 175 号バイパスを多可町に引き込んでほしい。また、やすらぎ苑付近までトンネルを通す。そうすることで、交通の便が一気に良くなる。 ・ 多可町の知名度をもっと上げる施策を打つべき。播州の奥座敷を魅力的

	に発信してほしい。 ・ 昨年の語る会で、焼却炉ができる説明の時に、灰を加工して草が生えない肥料を作ると説明を受けたが、その後どうなったか。埼玉県で実施されている。出来れば高齢者も増えているので助かる。 ・ 焼却炉で加古川は有機物を利用して、肥料を作り売られている。熱を利用して何かできないか。 ・ 子供の通学路（歩道、自転車道）につるが巻き付いて非常に危険である。早く処理して頂きたい。 ・ 空き家問題、後継者がいないので先が不安である。 ・ 多可町に観光施設はあるのか。天神地区・安楽田地区では姫ほたるが多く飛び、多くの人々が来られている。多可町にも色々な所も多くある、観光できる場所のもっと掘り起こしをすべきである。 ・ 街灯を LED に交換すべきである。 ・ 加西・多可町でサイクリングコースを設定し、観光 PR すべきではないか。加美町にカレー屋がある。サイクリングメンバーが多くこられている。 ・ マイスターは多くの集客がある。寿しを買ってすぐ帰られる。マイスターを拠点に加美区、中区、の観光地看板とか標識とか、全体に案内看板が少ない。 ・ 多可高校をもっと発展させるべきである。未来を創る学科を設置し、他町からも生徒が来て頂けるようにすべきである。県に働きかけを。 ・ 多可町は PR が非常に下手である。新聞にも滅多に掲載されない。もっとマスコミを上手に使うべきではないか。多可町には女性の方でインスタをされている方が多く居られる。もっと利用して町の PR をお願いすべきではないか。 ・ 多可町には指導主事が一人しかいない。一人では限界があるのではないか。二人にすべきでは。 ・ 大型事業ばかりするのではなく、今こそソフト事業に力を入れるべきではないか。
--	--

令和 7年 5月 20日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 門 脇 保 文

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和7年5月20日（火） 19時30分～20時30分
開催場所	アスパル
対象集落	天田・岸上
参加者数	5人
出席議員	班長（廣畑幸子） 司会（清水俊博） 報告（清水俊博） （藤本一昭）（橋尾哲夫）（吉田政義）（門脇保文）（日原茂樹）
意見発表	（廣畑幸子）（藤本一昭）（橋尾哲夫）
意見まとめ	・大型プロジェクトも「あすみる」のサービス開始をはじめ、順次進行している。しかし資金調達をはじめ、完成後の資金返済等、次の世代への負担が発生し、多可町の財政を圧迫するところは必至。大丈夫なのか。非常に心配している。議員も理解しているのか財源等の説明を求める。 ・多可町に産業が乏しく若者が働く場所が少ない。空き公共施設等の企業への貸与等有効活用を図り、稼げる場を作るべきです。 ・議会議員も単独でなく「会派」をつくり住民自線で行政へ提案するべき。 ・転入者、外国籍の人等々集落内でも社会変化が起きている。慣習等昭和時代の考え方が通用しなくなっており、我々住民もそれらに併せて、変化を余儀なくされています。規約の理解等大事であり大変だ。 ・空き家対策において、転入者される人に対し、事前に当該集落のシキタリ、規則、慣習を納得のうえ転入されるよう、十分な事前説明を求める。 ・私の自治体でも限界集落になりつつあります。 ・産業誘致に力を入れて、税制等優遇措置も設け立地しやすいようすべき。 ・古民家の利活用は県下 NO.1 だ。但し若人が来ない。原因分析すべき。

令和7年5月20日

多可町議会議長 日原茂樹様

報告者 清水俊博

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和 7 年 5 月 23 日（金） 19 時 30 分～ 21 時 30 分
開催場所	中村町コミュニティセンター
対象集落	茂利・中村町
参加者数	9 人
出席議員	班長（足立吉継） 司会（吉田政義） 報告（大山由郎） （市位裕文）（廣畑幸子）（藤原清勝）（門脇保文） （日原茂樹）
意見発表	（市位裕文）（大山由郎）
意見まとめ	・丹波市春日町は移住者が多い。多可町はどうか。古民家の利活用（店舗）等で多可町のアピールを。 ・若者の流出が増えている。移住者には手厚い補助があるが、町に住む若者には無いからだ。 ・神戸から多可町まで時間がかかりすぎる。東京と神戸は飛行機で一時間なのに。 ・若者の流出防止を。人口が減ると元気な町なんか無理。交通インフラ（175 号とのバイパスが鍵）。大胆な発想を。 ・子育て支援の件だが、近隣の町は給食の無償化など目立つ支援がある。多可町の子育て支援は他の自治体に比べ特徴が無い。多くの支援をしているのにアピールが下手、もっと発信を。 ・町を全国に向けて発信するには、町職員だけでは限界があるのではない。専門家に委託する方法もあるのでは。 ・多可町のふるさと納税の件（たかテレビのキャスター）のような個性的な取り組みをもっと増やすべきだ。あれはよかった。 ・町内にはたくさん企業がある。もっと若者に知ってもらえる手立てを。特に、若い女性が町に魅力を感じていない。（働く場所が少ない等）。 ・集落の祭りには県外に出ている若者が沢山帰ってきて盛り上がる。しかし、祭り（伝統文化）の維持が難しい。町独自の補助金を考えるべき。 ・県外に出でいる人との繋がりを無くさない方法を考えること。SNS などの活用を。 ・長男一家が尼崎から帰ってきた。理由は子育てがしやすいからだ。しかし職場が元のままだ、もう少し通勤が便利になったらいいのに。 ・企業の誘致に力点を置くべきだ。そうすれば若者の流出を防げる。 ・消防団の件だが、操法大会はやめるほうがいい。団員の仕事場が遠いの

	で夜の練習は無理だ。団員への報酬も少ない。
--	-----------------------

令和 7年 5月27日

多可町議会議長 日原茂樹様

報告者 大山由郎

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和 7 年 5 月 26 日（月） 19 時 30 分～20 時 30 分
開催場所	曾我井公民館
対象集落	坂本・曾我井
参加者数	12 人
出席議員	班長（藤原清勝） 司会（笹倉政芳） 報告（門脇保文） （笹倉政芳）（門脇教蔵）（日原茂樹）（吉田政義）（廣畑幸子）
意見発表	（門脇保文）（笹倉政芳）（門脇教蔵）
意見まとめ	・人口減、産業が無い。農業の後継者問題について企業と地域連携しながら考えていく。 ・急激な子どもの減少のために通学路の問題をどうするのか。 ・観光地として何かできないか。 ・子どもの病院や、買い物、選ぶ高校（多可高校が廃校になるのでは）へ行きたいが、交通の手段が無い不便さを何とかしてほしい。 ・女性の働くところが少ない。だから町から出ていく。 ・多可町の財政力は低い。厳しい感じがする。 ・黒田庄に酒蔵があるが活用できないか。 ・加西市に工業団地ができるが、多可町にはできないのか。ベッドタウンもいいではないか。広域で考えるべきではないか。 ・田井鉄工には外国人の労働者が多い。地元の人に入ってほしい要望がある。 ・多可町の名所や特産を活用し、企業と連携しながら宿泊施設を建築してはどうか。そのためにもインフラを整備しなければならないのではないかな。 ・交通機関の充実：タクシー券を使いたいときに使えるように近隣市町と広域連携は取れないか。 ・年金を上げてもらわなければ食べていけない。特に国民年金から介護保険を引かれると月 4 万円ぐらいしか使えない。 ・空き施設の有効活用：特に、加美中学校や八千代中学校の跡地活用事業を積極的に進めなければ地域が衰退する。 ・安定した収入と住むところがなければ、大学を出た人達は帰ってこない。一流企業の誘致をするべき。 ・空き家の利活用の促進：曾我井では約 1 割の空き家がある。管理されなくなる前に空き家バンクに登録するとよいが、その情報が乏しいと思

	う。 ・子育て支援策のさらなる情報発信を。子育てするなら多可町はよく耳にするが、どんな支援があるのか、分かりにくい。あったかナビ等情報発信の工夫を積極的にするべき。 ・学校・病院選べる環境。地方の停滞や衰退は、その地域の住みづらさが関係していると思う。生活に必要な施設が無かったり、その数が少なかったりして、他の地域へ移住を余儀なくされる人もいるのではないか。多可町には子どもを産む病院、医者もない。すると西脇市又は他市まで行かなければならない。その結果、都市部などに移住する人が増えているのだと思う。このような状況を改善するには、その地域の住民が様々な選択肢のある生活を送れるような体制を整える必要がある。医療関係を増やしたり、バラエティー豊かな娯楽施設を造ったりすることが地域の活性化に繋がる。 ・長野県松本市にある共学校生徒数 970 人。教室や廊下に新聞 8 紙を置き生徒が自由に読み比べてもらえるようにされている。
--	---

令和 7 年 6 月 2 日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 門脇 保文

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和7年5月29日（木） 19時30分～20時30分
開催場所	グリーンプラザ
対象集落	安坂・糺屋
参加者数	7人
出席議員	班長（廣畑幸子） 司会（藤本一昭） 報告（藤本一昭） （清水俊博）（橋尾哲夫）（門脇保文）（日原茂樹）
意見発表	（藤本一昭）
意見まとめ	1. 子育て支援と教育環境の整備 ・子育て世代からは、教育費や出産時の費用負担が家計を圧迫しているとの声上がり、「出産祝い金」や「教育費補助制度」など、より実効性のある経済支援の導入を望む意見があった。 ・子どもの数が減少する中であっても、将来の地域の担い手を育てる観点から、教育環境への継続的な投資（学校施設の整備や ICT 機器の充実など）の必要性が強調された。 ・中学校再編に伴う通学負担を懸念する声も多く、スクールバスや定期路線バスの柔軟な運用によって通学時間や安全性を確保すべきとの提言が見られた。 2. 高齢者福祉と健康寿命の延伸 ・「住み慣れた地域で最期まで暮らしたい」という思いに寄り添い、認知症高齢者も安心して自宅で暮らせる支援体制（見守り、在宅介護、地域支援員制度など）の強化が求められた。 ・高齢者が元気に社会と関わりながら生きがいを持てる町づくりが重要であり、趣味活動や地域イベントの充実、公共交通の利便性向上など多方面からの支援が必要との意見が寄せられた。 ・健康寿命の延伸を町の重点政策とし、予防医療や介護予防プログラムを地域ぐるみで推進すべきとの声もあった。 3. 人口減少・移住定住対策 ・若者や子育て世代の定住促進には、教育・福祉に加え、交通・通信インフラの整備や利便性の高い住宅環境の確保が不可欠とされた。 ・空き家の増加に対し、古民家リノベーション支援や空き家バンクの機能強化など、町の特色を生かした柔軟な定住施策の展開が求められた。 ・他地域からの移住者への支援体制として、地元住民との橋渡し役となる「地域サポーター」の配置や地域ルールの事前説明が重要であるという

	意見も見られた。 4. 地域間格差と集落の持続性 ・地区ごとに集落規模や高齢化率、担い手の有無に大きな差がある現実が共有され、画一的な施策では対応できないとの認識が広まっている。 ・地域活動（祭り、清掃、民生委員など）の継続が難しくなっているとの声も多く、町として中山間地や小規模集落の持続的運営に対する個別支援や制度的工夫を望む意見があった。 ・「支え合いの仕組みづくり」や「地域担当職員制」のようなきめ細かな対応が必要だとの指摘もあった。 5. 交流人口の増加と観光振興 ・道の駅や自然公園、ウォーキングイベントなどの地域資源を活用した取り組みが評価され、継続的に交流人口を呼び込むための広報強化とイベントの多様化が求められた。 ・多可町公式 YouTube チャンネル」など SNS を活用した町の魅力発信についても、他自治体に比べ先進的な取り組みであるとされ、今後さらに住民参加型で情報発信力を高めていくべきとの提案があった。 ・紅葉ダムなど未活用の観光資源についても再整備や利活用により、新たな交流創出の可能性を広げるべきとの意見があった。 6. インフラ整備と定住環境の向上 ・高速道路の整備や工業団地造成による企業誘致と雇用創出は、若者や移住者の定住促進に直結する重要施策として期待が寄せられた。 ・上下水道などの基本インフラが整っていない地域の課題にも触れられ、生活基盤の整備が町全体の魅力向上には不可欠との意見が出された。 ・町の DX（デジタル・トランスフォーメーション）推進に対する評価もあり、今後は AI やデジタル技術を活用した住民サービスの質的向上への展開を希望する声が上がった。
--	--

令和 7年 6月 3日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 藤本 一昭

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和 7 年 5 月 3 0 日（金）19 時 30 分～21 時 30 分
開催場所	西安田公民館
対象集落	森本・西安田
参加者数	14 人
出席議員	班長（足立吉継） 司会（藤原清勝） 報告（大山由郎） （市位裕文）（廣畑幸子）（門脇教蔵）（門脇保文）（日原茂樹）
意見発表	（市位裕文）（足立吉継）（大山由郎）
意見まとめ	☆村づくり等 ・若い人が減っている（出生の低下）。行事や村運営（まつりなど）が難しくなっている。 ・高齢者層が多いのは悪くないが、主体となる若い人がいない。 ・役員で一番若い人は 58 歳。 ・「役員になりたくない」「村づきあいが難しい」と若い人が出ていく場合もある。 ・個々の負担が多い（道普請など）。 （農業等） ・田んぼを守るのが苦になっている。5 年後 10 年後はどうなるのか。 ・町としてどうするのか。ビジョンは？ ・農業用地に家を建てられないか。農地転用手続きも大変だし二年も待てない。 ・営農組合は後継者の問題もあり、この先が心配だ。 ・今、米不足が問題になっているが、町内の米作り農家に対して町独自の補助金などを考えてはどうか。 ☆移住・空き家等 ・空き家っぽい家が増えてきている。 ・役場の対応が悪く、移住者が出て行ってしまうと聞いているが？ ・移住者への待遇はいいと聞いているが、今住んでいる住民へしっかりした対応も大切だ。 ☆シニアクラブ等 ・「敬老の日」発祥の地と謳うなら、助成金を毎年 20 万円ぐらい出すべきだ。 ・多可町シニアクラブ連合会からの脱退や解散をせず、頑張っているクラブに町から援助すべき。

	・ 会員が多いと損をするような会費徴収などのやり方は変えるべきだ。 ・ 解散・脱退が増えているが、その原因をよく考えるべき。＋アルファが必要。魅力がない。 ・ （若い人からは）今の村運営などでいっぱいいっぱいなのに、シニアクラブ入会時のことまで考えられない。 ☆若者の働く場所等 ・ 町内に企業はたくさんあるが、働きたいと思う場所がない。 ・ 働く人の住居の問題。空き家、町営住宅を活用してはどうか。 ☆その他 ・ 十数年前に描いていた老後のゆったりとした生活がしたい。 ・ 年金が減って安心して暮らせない。 ・ 峠を越えて危ない運転でグラウンドゴルフに行かなければならない。 ・ すべての年代に平等が理想だが、それは財政的に難しい。せめて子どもや高齢者に支援をしてあげてほしい。 ・ 多可町の特徴を生かして「草刈選手権」をしてみてもいいかも。
--	---

令和 7年 6月 4日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 大 山 由 郎

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和7年6月2日（月）19時30分～20時30分
開催場所	鳥羽公民館
対象集落	山寄上・鳥羽・清水
参加者数	10人
出席議員	班長（藤原清勝） 司会（藤原清勝） 報告（門脇保文） （笹倉政芳）（門脇教蔵）（日原茂樹）（足立吉継）（廣畑幸子）
意見発表	（門脇保文）（笹倉政芳）（門脇教蔵）
意見まとめ	・ 少子高齢が進み、農業、林業、草刈り等運営が成り立たなくなっている。 ・ 子どもを増やす対策をお願いしたい。 ・ 集落の役員が変わることなく、高齢者が維持しているが、やがて維持できなくなり、若いものにすべての事がのし掛かり犠牲になっていく。 ・ 今のうちに、風習を変え「出来る事・出来ない事」を皆で決めていかないとすべての事は出来なくなる。 ・ 30年後には、集落が合併しなくてはならないようになる。 ・ どこに行くにも遠すぎる。交通手段が問題だ。そのために出て行ってしまふ。 ・ 農業も兼業農家であるために、自分の所の分だけしか作らない。共同農業をしているのは刈り取る作業だけである。農協への供出米はない。 ・ 鳥羽には移住者が多い。個々の環境が良いから、移住者が宣伝してくれている。 ・ 多可町の源流であるために、お米や、農産物が新鮮である。杉原紙や道の駅、きれいな水、空気を活用し、企業とタイアップしてリゾート開発をすれば若い人も村から出ることなく住んでくれるのではないかな。 ・ 若い人の意見を取り上げてくれるような組織が欲しい。 ・ 小学校の在り方に町の将来の方針を示してほしい。複式学級でも残すことはないのか。学校が遠くなると通学が大変だ。 ・ 人口減少対策として、安定した収入がある仕事の確保が必要である。そのためには、積極的な企業誘致に向けた取り組みを進めるべき。公共施設の跡地活用として住宅を整備することも考えては。 ・ 地域の特性を生かし観光を促進すべき。青玉神社、杉原紙研究所、道の駅、三国公園キャンプ場など、この地域には人を呼び込む舞台はある。加えて周辺の山林をうまく活用することで、事前と共生できる体験型観光が考えられる。地域挙げて応援できる体制がある。

	・多可町で雪が一番多く積もる地域で、毎年国道や県道の交通の妨げになっている。もっと早い除雪作業に努めてもらいたい。村の中の消防団にお世話になっているが、雪かきの機材製作費ぐらいは町でお願いしたい。 ・毎年集落要望を提出しているが、一向に採用されない。予算配分が少ないのではないかと。当初予算審議で事業費の拡充をお願いしたい。
--	---

令和7年6月4日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 門 脇 保 文

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和7年6月6日（金）19時30分～20時40分
開催場所	西山公会堂
対象集落	轟・山口・西山・丹治
参加者数	20人
出席議員	班長（足立吉継） 司会（吉田政義） 報告（足立吉継） （大山由郎）（市位裕文）（笹倉政芳）（藤原清勝）（廣畑幸子） （門脇保文）（日原茂樹）
意見発表	（大山芳郎）（足立吉継）（市位裕文）（笹倉政芳）
意見まとめ	1. 地域運営・自治会・組織のあり方 ・高齢化が進み、村・地区運営に協力金が集められるか不安。予算が立ち行かなくなる恐れ。 ・専業農家も高齢化。放棄地対策が急務。 ・シニアクラブ・婦人会など従来の組織が弱体化。現状の区長・役員体制では限界。 ・集落はすたれ、草が伸びている場所も多い。 ・調整役・調整機能が不足。将来的に合併なども視野に、体制見直しが必要。 ・村の日役が嫌で出ていく人も多い。 2. 若者・子育て世代の定住・移住促進 ・若者や子育て世代が忙しく、役職が多すぎて担い手不足。 ・若者の働く場が遠い。在宅ワーク環境整備を。 ・ICカードや路線バスの利用促進・PRが必要。 ・古民家の活用：きれいに修繕して移住者に提供すれば定住につながる。 ・「子育てするならダントツ多可町」にふさわしい、もっと若者が住める環境づくりを。 3. 教育・学校に関する意見 ・大学生が町に戻らない。小中学校の間にふるさと教育を充実させるべき。 ・小学校の統合、中学の統合はやむを得ない面がある。小中一貫校が必要。 ・統合中学校の通学（バス通学）の補助を充実させてほしい。 ・ICT活用が進んでいない。原因分析が必要。 4. 中学校跡地活用案 ・加美中学校跡地活用について、木造体育館を残してシンボリックに活用できないか。

	・単なる取り壊しではなく、地域の交流拠点や文化活動の場などとして活用する可能性を模索すべき。 5. 交通・インフラ ・道路整備、高速道路の整備を希望。 ・火葬場が遠く不便。新ごみ処理施設付近など新たな施設設置を検討しては。 6. 産業振興・地域経済 ・企業誘致を進め、働く場を増やす。 ・人を呼べる施設の誘致を。人口増につながる。 ・多可高校の存続には特色ある学校づくりと福祉系学校との連携・アピールが必要。 ・多可高校も含めてエスカレーター式の学校にしては。 7. 防災・消防 ・消防団の人員不足が深刻。 ・自治会存続のためには補助金制度が必要。 8. 議員の活用・役割 ・議員はもっと住民の声を行政へつなぐ役割を果たしてほしいとの意見が多く出された。 ・行政・町民とのパイプ役として、意見集約・調整の場づくりや情報発信の強化が期待されている。 ・近隣集落との連携についても議員が主体的に関わることが望ましいとの声。 9. 住民の声の反映 ・若年世代の意見を聴く場を設けてはどうか。 ・女性の活躍の場づくりを進めるべき。女性の活躍が地域の活性化につながる。
--	---

令和7年6月9日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 足 立 吉 継

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和7年6月9日（月曜） 19時30分～20時30分
開催場所	箸荷むらづくり館
対象集落	箸荷・杉原・奥豊部・観音寺
参加者数	14人
出席議員	班長（藤原清勝） 司会（藤原清勝） 報告（門脇保文） （笹倉政芳）（門脇教蔵）（日原茂樹）（廣畑幸子）
意見発表	（門脇保文）（笹倉政芳）（門脇教蔵）
意見まとめ	・ 箸荷地区は、役員は今60代が入るが10年後を考えると年齢構成ができなくなり、村の運営は難しくなっていく。 ・ 結婚はされるがすぐに、便利の良い、西脇、加東、小野の方面に移住される。しかし、中には村の行事には帰ってこられる方もおられる。 ・ 男性の40代、独身が10人もいるが、出会いがない。 ・ 女性の組織が無いので、組織を作って頂くように依頼している。気軽によれる組織、お茶会もできる。 ・ 中学校が統合すれば、加美区、八千代区は過疎が早くなっていく。小学生4人、中学生4人。子どもの活動も、祭りもできない。 ・ 箸荷は、移住してこられる人も多い。地域の方より元気がある。 ・ 大型事業にばかり力を入れるのではなく、今やるべきことは、少子高齢、人口減少対策ではないか。 ・ 企業誘致もしなければならない。しかし、期待できない。古民家を利用して、ICT企業を誘致すれば。また、ITC企業、ネット関連であれば、2～3人でもできるので、古民家を紹介し、定住して頂けるのではないか。 ・ 中学校の跡地を有効に活用するために各階層から活発な意見を吸い上げ、アドバイザーも参画させて早い段階で方向を示すべき。 ・ 大型事業に大きな予算を掛けているが、ソフト事業にもバランスよく予算をつけるべき。 ・ 小さな村ではいまを維持することが難しい。5年後は見通すことは出来るが、仕事の選択肢が少なく後継者が帰ってこない。 ・ 東京一極集中が続く中、国が地方創生にもっと財源を充て過疎の町でも安心して働き暮らせる制度を構築するべき。その事を地方の声としてもっと政治に活かすべき。 ・ 外国人が日本の土地を買っているが、将来水源管理などに不安を感じ

	る。国の規制制度を見直さなければ大変なことになるのでは。 ・最近は多くの外国人が企業で働いておられる。しっかりと日本のマナーを身に着けて頂きたい。 ・村では一人で何役も担うことになる。行事が多すぎて村に住まない要因だ。今後は行事の簡素化を検討しなければならない。何処かの成功例の情報発信が欲しい。 ・10年後を見据え「村づくり委員会」を立ち上げ検討を続けている。その中で問題は少子高齢化である。もう手遅れではないか。議員や行政はどのように考えているのか。 ・農業や林業、現状維持していくのに限界が来ている。ここ数年は維持できるが、若者は働ける場所がないために便利な所へ出て行ってしまう。 ・箸荷芝居があるが若者がいないためにコロナからやっていない。老人会で出来ないのか。老人会は仕事が多すぎるために余裕がない。 ・集落同士の合併が必要ではないのか。行事内容を見直し、「出来る事、出来ない事」を今のうちに決めておかないと若者が犠牲になる。 ・箸荷では移住者が増えているが、地元の活動に参加と理解が頂けるかが今後の課題である。 ・企業誘致や道路の整備をして頂きたい。病院や買い物に時間が掛からないようにインフラ整備をお願いしたい。また、集落要望に関しても中々で聞いてもらえない。 ・空き家対策はどのようになっているのか。危険家屋があっても、家主がいない場合、集落が見守りや清掃をしなければならないのか。瓦が飛来し住民がけがをした時に誰が責任を取るのか。行政と集落との間で責任分担の取り決めが必要ではないか。
--	--

令和7年6月10日

多可町議会議長 日原茂樹様

報告者 門脇保文

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和7年6月13日（金）19時30分～20時30分
開催場所	加美プラザ
対象集落	豊部
参加者数	2人
出席議員	班長（足立吉継） 司会（吉田政義） 報告（足立吉継） （大山由郎）（市位裕文）（笹倉政芳）（廣畑幸子）（日原茂樹）
意見発表	（足立吉継）
意見まとめ	① 加美中学校・学校施設の利活用について ・加美中を壊すのはもったいない。宿泊施設や店舗に活用できる。 ・グラウンドに屋根をかけて全天候型ボールパークにすれば、サッカー・野球・グラウンドゴルフなど多世代が利用できる ・千ヶ峰マラソンを復活させ、加美中を宿泊・食事・農産物販売・体育館などを備えた拠点にすれば、雇用が生まれ人が来る。 ・「但馬ドーム」「グリーンベル青垣」「小野ハケ池自然公園」などのように屋根付き施設が話題になれば人は集まる。 ・「篠山の旧おぐも小」のような活用事例も参考に。 ・体育館の雨漏り、格技場の傷みなども指摘されており、改修して活用すべきとの声がある。 ・神鍋の民宿は合宿でにぎわっている ・中学校は、豊部集落単体では規模が大きすぎる。 ② 若者・子育て世代の流出と定住対策 ・子どもが5人いるが、全員出て行った。寂しい。このままでは加美区が最初に終わる。 ・島根では女子野球チームを作って定住につなげている。多可町でもそういう仕掛けを。 ・農業よりも働く場がある方が若者は残る。女性が地域に残る工夫が必要。 ・自分の子どもにも『ここに住んだら大丈夫』と言えるまちにしたい。 ③ 地域資源の活用と話題づくり ・中学校グラウンドに屋根をつけたら全天候型になり、スポーツの拠点にできる。 ・プロ野球・ジャイアンツの大勢選手は多可町出身。こうした地域の誇りを活かしてイベントや誘致につなげられる。 ・「マイスター工房の巻き寿司」「播州ラーメン」など、地元の魅力ある

	産品を発信すべき。 ・人は一度話題になれば集まる。話題性と仕掛けが大事。 ・高齢者でもできる、葉っぱを採って刺身に添える四国の事例のような収入源づくり。 ④ 働く場・雇用環境の整備 ・働ける場所があれば若者は残る。 ・IST 加美は離職者を減らすために転勤をなくした。こちらの場所を選んだのは交通の便の悪さ以上の“環境の良さ”が決め手。 ・練習場・宿泊・食事などを一体的に整備すれば、それなりの人を雇って運営できる。 ⑤ 交通・医療・生活インフラの課題 ・病院まで 40 分かかる。足がない。介護にも困る。 ・播州トンネルができてアクセスは良くなったのに活かしきれていない。どういうビジョンをもって作ったのか。 ・30 年後を語るなら、今やらないと多可町には中区しか残らない。 ⑥ 地域運営と住民意識・施設に対する声 ・青雲の家は立派だが運営が中途半端。もはや地元の人間が使える施設ではなくなっている。どこの誰が使っているかも分からない。 → 住民の疎外感が大きく、地元主体で使える公共施設運営を望む声。 ・川刈りでは 70 歳以上を免除しているが「自分が出来る集会所の掃除をする」と参加してくれる人も多い。 ・個人が重機を持ち込んで効率が良くなった結果、今までやらなかった作業まで増やされてしまい、悪循環になっている。 ・人が来れば好回転する。助けてくれるのではなく、何ができるかを考える。 ・みんなここが好きだから残っている。まつりや子ども会を守っている。 ⑦ 政策への期待と議会への評価 ・議員報酬が安すぎる。上げて若い人を増やせば地域が良くなる。 ・議員がこのように住民と一緒に考えてくれるのがうれしい。 ・決まっているから従えではなく、住民の声を聞いて柔軟に考えるべき。 ⑧ 教育再編・集落規模への懸念 ・杉原谷小と松井小が統合したら杉原谷地区は終わる。 ・寺内の方が住みやすくなっている。
--	---

令和 7 年 6 月 16 日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 足 立 吉 継

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和 7 年 6 月 16 日（月）19 時 30 分～ 20 時 30 分
開催場所	交流会館
対象集落	寺内・西脇・山野部
参加者数	13 人
出席議員	班長（藤原清勝） 司会（藤原清勝） 報告（門脇保文） （笹倉政芳）（門脇教蔵）（廣畑幸子）（日原茂樹）
意見発表	（門脇保文）（笹倉政芳）（門脇教蔵）
意見まとめ	・広報誌には折り込みが 12～13 部入っているが、ほとんど見ない。誕生と死亡欄だけで、新聞も見ない人が多いので紙の無駄ではないか。84 歳の住民が配布しているために部数を減らしてほしい。2 か月に 1 回程度配布が酔い良い。 ・あすみる図書館ができたが、限定された人達が活用しているだけではないか。1 人 5～6 冊借りてるだけで町民の一部の人が活用しているだけではないか。 ・たかテレビも見ない。中区でもたかテレビに加入していない地区があると聞く。ほとんどの人が見ていないのではないか。 ・施設を活用して、子どもたちが集まる場所があればいいと思う。加東市ではのぼりを上げて子どもたちに知らせている。 ・男女共同参画の条例ができていますが、村でも女性役員の登用が難しい。 ・集落で農家が 1 軒だけで、草刈りが大変。女性の活用もあるが、危険な場所でもあるので無理。 ・人参ぶら下げて（補助金や助成金）住民を利用するな。 ・村要望が聞いてもらえない。 ・かつて農道であったところが町道になり、通学路になったために 5 年間修繕を申請し続けてきた。農道であれば多面的費用ですぐに修復できるのに。 ・農地の畔を取り払い大きな田んぼにしてほしい。制度があれば活用してほしい。 ・フジバカマの植栽を増やし、珍しい蝶々（マサキマダラ）が群がってくる観光地として活用できないか。 ・多可町の環境にあった企業誘致を。例えば山林や棚田を活用する関連会社。それには専門アドバイザーを配置すること。 ・農業の 10 年後に向けて若い人を育成し広域農業を目指しては。法人化

	して利益を生む農業への転換を図るべき。 ・昔はもう少しのんびりしていたように思う。現在は村の行事が多い。多様性を認めた社会の中で、意識改革し現実を見つめた体制作りをしなければ若者が住んでくれない。せめてゴールデンウィークぐらいは行事がないようにすべき。 ・集落によっては子どもがいない。10 年後はもっと少子化になるので村の考え方も消極的になってしまう。若い人に残ってもらうためには一般的に働いて安定した収入と住む所の環境整備が必要。 ・納会で地域計画を立案しているが、10 年後に後継者・担い手がいないのではないか。 ・農業をするのに難しい。西脇・寺内・的場の田んぼに入れる水が取りにくい、確保が難しい。杉原川から取っているが、水がない。災害時の時にも不安がある。 ・町に毎年地域要望を出しているが、なかなか受け入れられない。遺跡、堤防に問題があるが、なかなか受け入れられない。 ・道路改修等も要望している。改修近辺で水道漏水の工事をしていたが、近くの道路が陥没していても、担当課が違うために改修されなかった。担当課で調整すべきではないか。 ・学校給食費の無償化をしてもらいたい。全額出なくても一部負担でもいいので。 ・中学校の跡地対策問題。今後どのように進んでいくのか。今後の小学校の存続に不安がある。 ・村組織役員機構に不安。とりわけ、消防団組織が難しくなっている。 ・町の財産は人である。65 歳以上で元気な方がたくさんおられる。元気な方々の知識、経験を学校校舎の一部の教室を利用して子どもたちに教えていただければ、町の活性化につながるのではないか。
--	---

令和 7 年 6 月 20 日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 門 脇 保 文

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和7年6月20日（金）19時30分～20時30分
開催場所	的場公民館
対象集落	奥荒田・的場
参加者数	19人
出席議員	班長（足立吉継） 司会（吉田政義） 報告（足立吉継） （大山芳郎）（市位裕文）（笹倉政芳）（廣畑幸子）（日原茂樹）
意見発表	（大山芳郎）（市位裕文）（吉田政義）（足立吉継）
意見まとめ	地域運営、自治会、組織のあり方 ・的場と奥荒田は山の共有もあり関係性が深く、今後の村づくりでも協力体制が取りやすい。 ・消防団員の減少。名前はあっても地元にはいない人も多く、いざという時に火が消せない。 ・消防団は過去に早期に合併できたという実績もあり、他分野でも協力を進めやすい土壌がある。 ・シニアクラブが継続できるよう町が積極的に支援すべき。 ・河川敷の草刈りには高齢化の影響もあり、町の補助金で行うべき。 若者、子育て世代の定住、移住促進 ・多可町の子育て施策はもっと周知されれば、移住する若者は増える。 ・「あったか子育てナビ」の積極的な宣伝が必要。 ・若者や家族が「住みたい」と思う地域づくりの推進が求められている。 教育、学校に関する意見 ・杉原谷小と松井小の合併について、加美中学校閉校後に一本化してはどうか。 ・小規模校の良さを活かすべき。 ・学校給食センターの今後について、生徒数の減少に伴う課題の指摘があった。（多可高校への提供開始の説明あり） ・多可高校にはより専門的な学科を設けて、地元就職につなげる教育を行うべき。 中学校跡地活用案 ・小学校合併に関連して、加美中学校舎の利活用が求められている。

- ・統合後の跡地利用は、住民の意見をよく聞いて進めてほしい。
- ・旧八千代北小学校跡地のようにならないように。

交通インフラ

- ・道路改良（例：急カーブや狭小部を含む県道の危険箇所）について、町の責任で対応を。
- ・多可町は交通インフラ整備から取り残されており、加西市や丹波市には高速インターがあり工場誘致の前提が整っている。
- ・足の悪い人にとって、移動販売車が家の前まで来てくれれば助かる。
- ・移動販売はあるが、もっと細やかな運行をしてほしい。

産業振興、地域経済

- ・農業支援について、特に小規模農家のグループ化と共同農機具購入への補助制度を。
- ・専業農家よりも兼業でやっていける仕組みが望ましい。
- ・将来的には集落営農を法人化することを目指した支援体制が必要。
- ・農業従事者の動向にも関心があり、町としての分析と方針が必要。
- ・地元企業が人手不足を訴える一方、給与が低いため人が集まらない。
- ・安定した暮らしと仕事がなければ若者は戻ってこない。
- ・大卒者に見合った仕事や求人が町内に少なく、若者が地元に戻ってこれない。
- ・西脇市や加西市を参考に企業誘致を進めるべき。
- ・外国人労働者の雇用は必要だが、マナー面での指導と徹底も必要。

住民の声の反映

- ・議会で給食無償化が議論されていることに対する関心。
- ・議員定数削減についての意見。
- ・議員には「町の盛り上げ策」をもっと打ち出してほしい。

令和7年6月23日

多可町議会議長 日原茂樹様

報告者 足立吉継

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和 7 年 6 月 23 日（月） 19 時 30 分～20 時 30 分
開催場所	モルゲンハイト八千代
対象集落	横屋・下村・門田
参加者数	6 人
出席議員	班長（藤原清勝） 司会（藤原清勝） 報告（門脇保文） （笹倉政芳）（門脇教蔵）（日原茂樹）（廣畑幸子）（市位裕文）
意見発表	（門脇保文）（笹倉政芳）
意見まとめ	・ 6 月広報誌に夏祭り中止の記事が出ていました。里帰りの娘が残念がっていました。「あすみる」や中学校の建設中の校舎を一緒に見たかった。なぜ中止になったのか。 ・ 6 月 19 日の新聞に兵庫県内 12 町の中で、多可町は人口減少 51 人で兵庫県トップであった。他の町と比べても約倍近い現象であった。今後どうなるのか。 ・ 中学校の統廃合により跡地対策はどうなっているのか。 ・ 免許返納により不便を感じるが、どのような対応をしてもらえるのか。来年度より公共バスの路線変更やタクシー券の活用、社協やボランティア活動による送迎、各地域局による支援活動等によりサポートするとあるが。 ・ 愛称名の募集があるが、「みどり苑」が「新みどり苑」になり、統合中学校が「多可中学校」になった。これって募集の意味あるのか。 ・ 多可テレビに映る 2 人の議席番号 7 番、8 番がいつも映っているがモザイクでもされてはどうか。本人たちも大変だと思いますが。 ・ 10 年後を考えると議員定数を減らし、報酬を上げる方が良いのではないか。 ・ 多可町を見たとき全体構想が見えてなく、すべてが中央に集中しすぎている。残された加美区や八千代区はどうせよというのか。 ・ 多可町の生き残りがあるのか。既存の施設を潰し、跡地対策をどのようにするのか。旧八千代北小学校をはじめとしてどうするのか。 ・ 古民家再生で町を訪れ、4 年間相談したがアドバイスがなく、中途半端なところで終わる。薄情すぎるし迷惑であった。親身になって相談に対応してほしい。 ・ 地区の個人山で倒木が増え、所有者も東京の人で、連絡とる事すら難しく所有者もわからない人がおられるので、連絡できない。境界線もわか

	らない。 ・空き家も増えかけており、維持するのが負担になる。 ・地域共生を町は進めておられるが、コークゼミに参加されておられる方が地区になく、役員でしなくてはならなくなっている。他の役員にお願いをするが、組織を運営していくにはお茶代、弁当代も必要になってくる。町で運営補助代ぐらいを出していただきたい。 ・門田の公民館が避難場所になっているが、テレビがない。避難場所には、テレビは必要である。 ・中学校、小学校問題。公共施設には使わないとのことであるが、すぐに取り壊しをすればいいのではないか。維持経費もかかる。 ・グラウンドは、整地して有効利用すればいいのではないか。
--	--

令和 7 年 6 月 25 日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 門 脇 保 文

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和7年6月25日（水）19時30分～20時30分
開催場所	市原交流会館
対象集落	市原・大袋・三谷・門村
参加者数	15人
出席議員	班長（廣畑幸子） 司会（廣畑幸子） 報告（廣畑幸子） （藤本一昭）（清水俊博）（橋尾哲夫）（笹倉政芳）（門脇保文） （吉田政義）
意見発表	（藤本一昭）（清水俊博）（橋尾哲夫）
意見まとめ	1. 今の状態を緊急事態との認識の共有が必要 ・限界集落・婦人会消滅・少子化・高齢化・空き地、空き家・耕作放棄地。 ・税込確保への取り組みが必要。先の多可町財政運営が心配。働く所、企業誘致は是非必要。 2. 公共交通の充実 ・福祉タクシー券は、中区や西脇市まで行けば1回で使い切ってしまう。 ・西脇市の巡回型バスを多可町も採用すべき。 3. 医師確保・医療環境等を現状のレベルを維持してほしい ・診療所の医師退職後、一時閉鎖。その間多可日赤など遠い所に通院した。町民の健康を守ることが最重要である。 4. 中学校の統合について ・加美中学校廃止。大変素晴らしい学校をなぜ無くすのか。これまでの「伝統・実績」を次世代に継承する取り組みを是非期待する。 5. 地域イベントの再考 ・過去に加美区で開催されていた夏まつりの花火大会の復活を望む声がある。地域住民の連帯感や賑わいを取り戻すため、文化イベントの再開催が望まれている。 6. 若者の考え・意見を聞く機会をもっと設けて ・将来をまかせる若者の意見をもっと聞いて政策にどんどん取り入れるべき。

	・町営住宅の空きが多くあるが、独身者は入居できない。入居条件が厳しく、独身者に対する配慮が無い。条件を緩和して独身者でも入居できるようにすべき。 7. 集落の日役 ・村では年4～5回の草刈り作業、川掃除があり、高齢者にとって大変きつい作業である。若い人にもどんどん手伝ってほしい。日役に欠席すると罰金が取られる。 8. 地域の魅力発信 ・町の魅力を言葉で伝える「逸品運動」を。兵庫県内という立地の強みもアピール材料。 9. 地場産品の活用とふるさと納税の強化 ・多可町のお米は高く評価されている。ふるさと納税の返礼品としての活用が提案された。ふるさと納税のエントリー方法が充分周知されていないのが課題。 10. 山林保全と開発規制の強化 ・山林を手放す人が増えており、開発に伴う環境破壊を防ぐための条例制定が求められている。産業廃棄物の処分場化などを未然に防ぐ必要がある。
--	--

令和7年6月30日

多可町議会議長 日原茂樹 様

報告者 廣畑 幸子

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和 7 年 6 月 27 日（金）19 時 30 分～20 時 30 分
開催場所	八千代プラザ
対象集落	赤坂・俵田・中野間
参加者数	8 人
出席議員	班長（足立吉継）司会（吉田政義）報告（市位裕文） （大山由郎）（門脇教蔵）（門脇保文）（藤原清勝）（日原茂樹）
意見発表	（市位裕文）（足立吉継）
意見まとめ	若者・子育て世代の対策 ・若者世代の減少が激しいので町の将来が心配。 ・60～70 代の年代が8割を占める。危機感がある。 ・行政としては、出て行った世代への後追い施策が必要。町の報告や連絡の便りの発信。 ・行政としてのアプローチを続ける。いつかふるさとにUターンする。 ・農地の再構築が必要であるため情報を発信する必要がある。若者に農業をしてもらうため。 働く場・雇用対策 ・工業立地は難しいので通勤者の確保に努める。 ・住宅の確保に努める。 ・若者世代対策としての補助金の拡大対策が必要。 ・住環境の整備により若者の定住を図る。 地域運営 ・地域格差が激しくなり住みにくくなった。 ・村役や自治会運営は高齢者が増え大変である。80 歳定年がある。 ・有志で活動をつづけている。竹谷山や放棄地の草刈り。 ・30 年後の将来は限界集落から消滅集落になる。 ・女性の参加が少ないので増やす方策が必要。 ・高齢者の移動難民が増えるので足の確保が必要。ちょいボラボランティアに参加しているが利用者が増えた。高齢者の移送対策が急務。 ・ボランティア活動のコーディネーター組織を立ち上げて、調整が必要。 ・タクシー運転手の不足があり、タクシー利用券が利用しにくい。

令和 7 年 6 月 30 日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 市 位 裕 文

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和 7 年 6 月 30 日（月）19 時 30 分～ 20 時 30 分
開催場所	柳山寺住民センター
対象集落	下三原・柳山寺
参加者数	9 人
出席議員	班長（藤原清勝） 司会（藤原清勝） 報告（門脇保文） （廣畑幸子）（日原茂樹）（橋尾哲夫）（清水俊博）（藤本一昭）
意見発表	（門脇保文）（笹倉政芳）
意見まとめ	・道路際の立木に対して誰が管理するのか。通学路であるために町に相談したが門前払い。別荘地で入られている方の負担とのことで大阪・加古川の方をお願いをしました。1 本切るのに 68 万円・196 万円相当かかるとのことです。自ら来られて伐採された。村との関りが薄いために、村によっては協力金や協議費の在り方についての解釈が異なることも原因なのかもしれない。今後、加美区や八千代区に置いて道路際立木の伐採が多発する可能性が高い。里山整備事業では民家のあるところのみのため検討してほしい。 ・中区だけがよくなり、他の区の要望を聞いてくれないので、加美区、八千代区の区長と一緒に町長に談判する。 ・少子高齢化により、放棄田や草刈り場が増える。人口増にどのような取り組みを検討されているのか。結婚するためにカウンセラーを要請すると一人 50 万円の費用が生じる。 ・明石や加東市、小野市のまねをしてもだめだ。町独自の方法を考えることが必要だ。 ・女性の活用と子育て問題をどのように取り組むか。 ・多可町のいろんな資料に基づいて分析してから人口増を検討する。 ・自分で鉄工所を営んでいるが、結婚については考えられない。給料が安いために踏み切れない。 ・多可町は自然災害の少ない町であり、関係人口や原地区から加西市（河内）へのアクセス道路を早く付けていただくことにより、働き場所が確保でき、人口減の歯止めになる。 ・2040 年問題をどう乗り切るか。段階の世代の介護難民の問題。 ・多可町におけるケアマネージャーの不足が大きな問題になるため、行政が育てる必要があるのではないか。 ・親元を離れ独立して暮らしたい若者が増えており、町内企業より町外企

	業へ流れている。安定した収入と若者が住む環境づくりが必要。 ・明石市の子育て支援にインパクトがあり、若者は敏感に反応する。多可町も充実した施策をしているが、独自性のある支援策の検討を。 ・田舎は土日草刈り等の出役が多く、10年後を考えると負担が大きくなるので事業の集約化を図らなければならないと思う。そうした作業を請け負える企業を育てるべき。 ・交通手段としてのタクシー券は焼け石に水状態だと感じている。ライドシェアの実証実験を踏まえて機能性のある交通システムを検討すべき。 ・八千代区に食料品店が欲しい。 ・神社やお寺の維持管理が大変になっている。昔は寄付金で賄っていたようだが、最近は若者が村から離れるケースが多く個々の生活が厳しいので大きな負担になる。
--	--

令和 7年 7月 6日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 門 脇 保 文

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和7年7月3日（木） 19時30分～20時35分
開催場所	中安田公民館
対象集落	中安田・東安田
参加者数	16人
出席議員	班長（廣畑幸子） 司会（藤本一昭） 報告（藤本一昭） （清水俊博）（橋尾哲夫）（日原茂樹）
意見発表	（清水俊博）（廣畑幸子）（橋尾哲夫）
意見まとめ	1、地域活性化・住民参加 地域に残る空き家の利活用や交通手段の確保など、生活インフラに関する改善要望が多く寄せられた。また、地域の魅力を再発見し外部に発信する取組（例：YouTube や SNS 活用）を強化し、移住者や観光客の増加を目指す声もあった。住民自らが発信者となり、地域資源の掘り起こしと持続可能なまちづくりの担い手となることが大切だという認識が共有された。 2、子育て・教育 中学校の統合計画について、十分な情報提供や住民との協議がなされていないとの懸念が示された。通学距離や安全性、小規模校のメリットを重視する声が多く、教育環境の整備と同時に、保護者や地域の不安に丁寧に向き合う姿勢が求められた。通学支援体制や将来の統合計画に関する透明性ある対応が不可欠との意見が目立った。 3、高齢化・人材不足 村の役職や地域活動の担い手不足は深刻で、特に高齢化によって役割が一部に偏り、負担の偏在化が課題となっている。町からの依頼事項も多く、地域として対応しきれないという声もあった。行政側には、住民の現状に即した柔軟な支援体制と、負担軽減を意識した制度設計が求められている。協働のバランスが今後の地域力に直結する。 4、農業の課題 農業従事者の高齢化と後継者不足が、地域の持続性を脅かす最大の課題として指摘された。若者が農業に関心を持ちやすい環境整備や、町としての支援策の充実が急務との意見が多く聞かれた。農業体験の受け入れや ICT 技術の導入によって、新しい担い手を育てる工夫も期待されている。

5、交通インフラ

高齢者や移動困難者の交通手段の確保は、定住促進と生活支援の両面で重要とされた。公共交通の減便や過疎地の交通空白への不安があり、柔軟な交通施策や、ドア・ツー・ドア型の地域内移動支援の整備を望む声が上がった。また、地域外からのアクセスについても再検討し、利便性を町の魅力として活かすべきとの意見が出た。

6、ICT の活用

ICT や AI 技術（例：ChatGPT）を活用し、住民の意見収集や政策提案に役立てる提案が出された。デジタル技術を補助的に活用しつつ、対面での会話やワークショップ形式との併用により、幅広い住民の声を拾い上げる仕組みが重要だとされた。特に若者世代や子育て世代の参加を促すには、ICT 活用が有効との声もあった。

令和7年7月7日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 藤 本 一 昭

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和 7 年 7 月 4 日（金） 19 時 30 分～20 時 30 分
開催場所	なごみの里 山都
対象集落	中三原・上三原
参加者数	9 人
出席議員	班長（足立吉継）司会（吉田政義）報告（市位裕文） （大山由郎）（門脇教蔵）（門脇保文）（藤原清勝）（廣畑幸子） （橋尾哲夫）（清水俊博）（日原茂樹）
意見発表	（足立吉継）（市位裕文）
意見まとめ	若者・子育て世代の対策など ・若者世代の減少が激しいので町の将来が心配。 ・60～70代の年代が7割を占める。危機感がある。 ・若い世代の夫婦がUターンしたが失敗だったといわれた。加西の方がよかった。 ・空き家、住宅が多いので無償で貸し出せばいい。 ・何か特徴がある施策がないと無理。横並びの施策ではだめ。 ・若者に農業をしてもらうため宅地や農地の支援が必要。 ・草刈や村の使役への参加が負担に感じる。公的にしてもらいたい。 ・産業立地は難しいので住宅地としての生き残りが必要。 ・工業立地は難しいので通勤者の確保に努める。 ・住宅の確保に努める。 ・若者引き留め策としての補助金の拡大対策が必要。 ・住環境の整備により若者の定住を図る。 地域運営 ・高齢化が激しくなり、消滅集落になり住みにくくなった。 ・村役や自治会運営は高齢者が増え大変である。いつまで参加できるか不安。 ・有志で活動をつづけている 竹谷山や放棄地の草刈り。 ・30年後の将来は限界集落から消滅集落になる。 ・女性の参加が少ないので増やす方策が必要。 ・公共交通に頼れないので足の確保が必要。 ・何をするのも、施策が遅すぎる。 ・タクシー利用券が利用しにくい。

令和 7 年 7 月 9 日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 市 位 裕 文

議員と気軽に語る会 実施報告書

	令和7年7月9日（水）19時30分～20時30分
開催場所	熊野部公会堂
対象集落	熊野部・岩座神・棚釜・多田
参加者数	8人
出席議員	班長（廣畑幸子） 司会（廣畑幸子） 報告（廣畑幸子） （藤本一昭）（清水俊博）（橋尾哲夫）（吉田政義）（笹倉政芳）
意見発表	（藤本一昭）（橋尾哲夫）
	1. 集落の公民館の老朽化が課題 多田公民館は築後60年が経過している。新築の場合約1億円かかる。集落での独自の建設は不可能である。町に話をしても補助金は500万円程度で話にならない。 2. 住民の集う場所の確保が必要 住民が一体になるための何かイベント、まつりを行い、若者と高齢者が交流できる場を創る。 3. 空き家の管理など 空き家になる前に町の空き家バンクに登録させ所有者とすぐ連絡がでる対策をする。 過去2年間で4軒、さらに近年では7軒の世帯が減少しており、今後10年以内にはさらに10軒程度が空き家になる見込みである。 4. 自治会運営 役員が人口減少の中輪番制で回っているため、若年層との世代間ギャップが課題となり、運営のスムーズさが損なわれている。役員のなり手不足でも苦慮しているが、町からの依頼は変わらない。 5. 移住定住促進策への期待 移住希望者に対し「田舎暮らしの魅力」が伝わっていないので町としての積極的な移住政策の必要性が提起された。特に有機農業に関心をもつ移住者も多いが、新規就農者への農地の提供や農機具のシェアリング制度の導入など、マッチングの仕組みが求められている。 6. 農業関係 兼業農家にも補助金の支払いをしてほしい。専業農家に対し農機具購入の際にいろいろな補助金が支給されているが、兼業農家には支給されていないので支給してほしい。 営農組合が集落では立ち上がって6年目になるが、メンバーも高齢化し

	ている。今年 50 代の人が数人、入ってくれたが、30 代 40 代がいない。担い手不足に苦慮している。若い世代に農業への魅力が無い。田舎暮らしにも魅力が無い。 7. 定年後の U ターン促進を 都市部に出た集落出身者が定年を迎えたとき、地元へ戻る支援策として U ターン優遇制度を作してほしい。集落に帰ってくる人が増えれば、地域コミュニティもさかんに、また同級生や親族との関係性も再び築くことができる。こうした世代の居住促進は地域維持に貢献できるものとする。 8. 若い世代に郷土愛の教育を 考え方をもっと育ててほしい。地域愛の醸成が重要。 9. 高齢者が感謝している (1) 松井診療所の送迎サービスで助かっている。 (2) マックスバリュが、週 1 回公会堂に来てくれる。買い物ができて助かっている。
--	---

令和 7 年 7 月 16 日

多可町議会議長 日 原 茂 樹 様

報告者 廣 畑 幸 子

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和7年7月17日（木） 19時30分～20時35分
開催場所	大屋住民センター
対象集落	大屋・坂本・中村
参加者数	6人
出席議員	班長（橋尾哲夫） 司会（橋尾哲夫） 報告（藤本一昭） （廣畑幸子）（清水俊博）（門脇教蔵）（市位裕文）（日原茂樹）
意見発表	（藤本一昭）
意見まとめ	1. 地域公共交通の課題 八千代区内には公共交通の利用が困難な“空白地域”が存在しており、高齢者や車を持たない住民の日常生活に影響が出ています。特に買い物や病院への移動に支障をきたしているため、ライドシェアや住民同士の乗り合いといった新しい交通支援の導入が求められています。また、バス通学においても、バス停の位置やそこまでの道路環境の整備が課題となっており、利便性と安全性の両立が必要です。 2. インフラ整備と道路環境 道路沿いの雑木や草が視界を妨げ、防犯灯にも影響を与えていることから、伐採・剪定の徹底が提案されました。特に通学路の安全確保のためには、歩道の見通しや明るさの確保が不可欠です。また、県道沿いや坂本バイパスでは通勤時間帯の交通量増加が顕著であり、現在の40km制限では不都合があるため、50kmへの引き上げとともに、超過速度への対応、安全な歩行者通行の確保も重要な課題となっています。 3. まちづくりと地域バランス 近年、中区への施設集中が進んでいることに対し、八千代区・加美区への配慮が不足しているとの声がありました。住民サービスの公平な分配や、各地域における賑わいづくりの支援が求められています。人口減少が進む中でも、各区が独自に活性化していけるよう、施設やイベントの分散配置や地域資源の活用が期待されています。 4. 地域コミュニティと若者支援 かつて活発だった女性会などの地域活動が減少傾向にある一方で、地域に根ざす若者世代や若い女性たちが地域社会に貢献しようという意欲を持

	っていることが指摘されました。彼女らが地域とつながる機会を増やし、ボランティア活動やコミュニティ活動に参加できる環境を整えることが、今後の地域づくりにおいて重要です。住民同士がつながり合い、支え合う「地域ネットワーク」の構築が求められます。
--	--

令和7年7月22日

多可町議会議長 日原茂樹様

報告者 藤本一昭

議員と気軽に語る会 実施報告書

開催日時	令和7年7月23日（水）19時30分～20時30分
開催場所	下野間住民センター
対象集落	仕出原・下野間
参加者数	10人
出席議員	班長（廣畑幸子） 司会（橋尾哲夫） 報告（橋尾哲夫） （清水俊博）（藤本一昭）（笹倉政芳）（門脇教蔵）（門脇保文）
意見発表	（廣畑幸子）（藤本一昭）
意見まとめ	1 道路の拡幅 ・産坂を1メートル削って、サーキットからまっすぐにする。産坂は道が曲がっていて危険であり、死亡事故も起きている。中北条線は大きなトラックが多く通る。昔、産坂を工事する構想があったが今は途切れている。 2 八千代中学校の跡地利用 ・体育館の活用として、自転車競技BMXのコースをつくってはどうか。オリンピックの種目でもあり、練習している子どもたちを見るだけで楽しい。いろいろな人が訪れれば賑わう。 3 若者が定住したくなる町づくりや子育て環境の充実 ・町営住宅が子育て世代に全然活用されていない。子育て世代を追い出すような施策はやめるべきである。 ・子育てに優しい町を。高齢者がグラウンドゴルフをしているので、子どもたちは遊べないとよく聞くと、地域の人も子どもと一緒にしようと声かけするなど優しく接してほしい。今は親の考え方も昔とは違っているが、みんなで地域の子どもを育てることが大事と改めてほしい。「権利と義務を」をはき違えている。 4 議員定数の見直し ・現在の議員定数（14名）は人口規模に見合っていないのではない。人口減少より議会のスリム化が必要である。 ・議員の一般質問等の質については、過去の質問を繰り返している。もっと実効性のある質問をすべきである。 ・議員の質の向上と透明性の確保が求められる。 5 元気な村づくり ・メリハリのある地域活動を。地域内の集会等は時間管理にメリハリをつけ、参加しやすいようにすべきである。

	・独自性のある村づくりを。移住してきた住民からすると「ここでしかない」地域づくりが大切である。 ・空き家対策として「昼はマルシェ、夜はスナック」といった二面性、柔軟性のある活用法がある。 6 農業と土地の利活用 ・貸し出している農地について、借主が十分に活用されていない事例がある。農地の活用状況についても、貸主借主双方にとって有益なマッチングや支援が必要である。 7 今後の産業誘致と地域経済 ・西脇・多可地域は安定した岩盤層があり、大規模施設の建設に適している。例えばデータセンターなど最先端産業の誘致をしてはどうか。 ・近年、町内で個人商店の閉店が相次ぎ、地域の賑わいが失われている。個人での出店はハードルが高く、行政として何らかの支援策が必要である。持続可能で希望ある村づくりのために、経済基盤の再構築は必要である。
--	--

令和7年7月25日

多可町議会議長 日原茂樹様

報告者 橋尾哲夫